

ひな鳥のいのち・死んだ子のおしえ・いちばん愛するもの

ひな鳥のいのち

むかし、天の神さまインドラと悪神のアスラとが戦争しました。

はげしい戦いで、アスラの軍は天の国へおしよせ、インドラの軍はまけいくさで、北の方へにげました。馬車が林の中にきたとき、小鳥の巣にひな鳥がたくさんいました。馬車をすすめれば、ひな鳥たちを殺すことになります。インドラは御者にいいました。

馬車を南へかえせ、そのひな鳥を殺すな！」兵士たちはおどろいて、いいました。

「うしろからアスラの軍が追ってくるのに、ひきかえせば大へんなことになります！」

インドラはきびしくいいました。

戦争しているのだから、わたしたちは殺されてもしかたないが、小さな生きものの命をふみにじりたくはないのだ」

そして、その道を南の方にひきかえしはじめました。おどろいたのは、追っていたアスラの軍です。

「これは何かたいへんな策略があるにちがいない。あぶないからひきかえそう」

アスラは兵士たちにいいつけ、いよいよこわくなって走りさりました。

こうして、天の神インドラは、悪神の軍をちりぢりにして、アスラの国へ追いかえすことができました。

死んだ子のおしえ

むかし、ある長者のかしこいひとり息子が、病気でなくなりました。

たいそうかわいかったので、両親のなげきはたいへんでした。

やっとお葬式をすませましたが、銀のツボにお骨を入れ、たくさんお供えものをして、まいにち、泣きかなしんでいました。

ところが、死んだ子は仏さまの国に生まれていましたので、何も手につかない両親をあわれんで、たすけようとおもいました。

そこで、牛飼いの子どもになってあらわれ、まいにち、長者の家のちかくで、たくさんの井をあそばせておりました。

ある日、一頭の牛が死にました。

子どもは大声で泣きさけび、牛の口へ草をつきつけ、「はやく立ちあがって食べろ」と死んだ牛をムチでうちました。

それを見ていた長者たちは、子どものすることをわらいながら、「そんなことしても、死んだものは食べ

ないんだよ」といいました。

子どもは、にっこりして長老にいました。

「そうだよ。けれどもおじさんはどう？ まいにち、たくさんのお供えをして泣いているじゃないか」
長老はその子どもに教えられ、おシヤカさまの話を聞くことになりました。

いちばん愛するもの

むかし、ある国に、たいへん仲のよい王さま夫婦おりました。

ある日、お城の屋上からうつくし景色をながめながら、二人で「愛」についてかんがえました。

王さまは、「そなたのいちばん愛するものはなにか」と夫人にたずねました。

夫人は、いろいろとかんがえて、こたえました。

「王さま、はっきりいいますが、わたくしはこの自分よりもっと愛するものは見あたりません。王さまは、ご自分より以上に愛されるものがありますか」

王さまも、こたえました。

「わたしもやはり、わたし自身をいちばん愛しているとおもう」

そこで、王さまは、おシヤカさまをたずねて、そのことをもうしあげました。

「わたしたち夫婦は、この世に自分自身よりもっと愛するものがあるかとかんがえましたところ、いちばん愛するものは自分自身ということになりました」

おシヤカさまはうなづいておしえられました。

人間のおもいはどこへでもゆくが、自分より愛するものを見つけられない。他の人も同じです。だからこそ、自分がいちばん可愛いと知るものは、他のものをかわいがり、いつくしみをかけねばならないのです」

年 組 番 名前 ()

ひな鳥のいのち・死んだ子のおしえ・いちばん愛するもの

1. 「ひな鳥のいのち」 を読んで下さい。
2. 天の神様、インドラが、悪神のアラスに戦争で勝ったのは、なぜだと思いますか。
3. 「死んだ子のおしえ」 を読んで下さい。
4. 長者は、牛飼の子どもに、なにを教えられたのでしょうか。
5. 「いちばん愛するもの」 を読んで下さい。
6. 君が、いちばん愛するものは、なんですか。
7. 最後のお釈迦様の言葉を君は、どう思いますか。観想を書いて下さい。

年 組 番 名前 ()